パパのいうことを聞きなさい！ IFストーリー

夢を忘れた者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
パパのいうことを聞きなさい！　ＩＦストーリー

【Ｎコード】
Ｎ０８２７Ｘ

【作者名】
夢を忘れた者

【あらすじ】
大学に合格し、新生活をスタートさせたばかりの瀬川祐太と職業難のなか無事就職をした瀬川虎牙は、新しい友人や憧れの人、同僚に巡り会う。しかし祐太の姉夫婦が乗った飛行機が行方不明になった事で事態は一変する。一人暮らしの祐太の部屋に中学生の空、小学生の美羽、保育園児のひなが同居することになってしまった。困っていると祐太の兄貴分である虎牙が手を差し延べる。思春期の女の子達のパパになってしまった祐太と虎牙の運命は！？ドキドキの同居生活に、祐太と虎牙を慕う少女達に憧れの先輩や同僚との恋も

絡んで大騒動！

ドタバタアットホームストーリー始まり始まり。

1話（前書き）

初文です。６５％ぐらいは本から抜き出していますが気にせず読んでいただければ幸いです。
気にする方はバックして下さい。

1話

そう、君達がいるから強くなれる。
どんな事があっても守ってみせる。
だって俺達は、パパなんだから。

俺は瀬川虎牙。親戚の瀬川祐太とは兄弟の様に育った。彼は、親戚から視てもすさまじい人生を送っている。例えば、物心ついてすぐ両親を亡くし、逞しくバイタリティ溢れる姉に育てられたという波乱に満ちたスタートを切っていた。そして今現在彼は大学に入学し安アパートに住み始めたハズだったが彼の狭い部屋には、中学生、小学生、幼稚園児という三人の女の子がいる。なぜ？と聞かれたら面倒くさい前置きが必要になってしまう。まぁ言えるのは、年頃の女の子はとにかくいろいろと難しい生き物であるということだ。そして、あろうことか俺達は、そんな難解な生き物のパパなのだ。
そしてまた今日も波乱に満ちた一日が始まるのだった。

「・・・はダメー！」
朝っぱらから、安アパートの外に聞こえる小学生の悲鳴が響いた。
「朝っぱらから何しでかした。祐太の奴は。」
俺はため息混じりに呟いているとさらに怒鳴り声が聞こえてきた。
どうせ困っているであろう弟分を助けるために彼の部屋に向かいドアをノックした。

「は～い」
先程の小学生の声が聞こえ少ししてドアが開いた。そこから顔を覗かせているのは金髪で俺の胸の辺りまでしか身長のないツインテールの少女が出てきた。見た目はアイドルばりの美少女が俺を見上げて
「いらっしゃい。虎牙叔父さん。」
と言って出迎えてくれた。「朝忙しい時に来てごめんね。美羽ちゃん。」
そう断わりを言って部屋に上げてもらった。
「いいえ。大丈夫ですよ。今から、朝食にしようとしてたとこでしたから。」
そう言って笑顔で朝食であろう、トーストとサラダを運ぼうとしていたので
「俺が運ぶよ。」
断わりをいれつつ彼女が持つ前に俺は朝食を持ち、奥の部屋に運んだ。そこにはセミロングの髪をした中学生の空ちゃんと、黒髪で長髪の幼稚園児ひなと、俺の弟分である祐太が待っていた。
「おはようございます。虎牙叔父さん。」
「おはよう。虎牙おいたん。」
「あぁ。おはよう。二人とも元気そうで何よりだ。」
挨拶を交わしこの部屋の主である祐太に
「おはよう。すまないが台所借りるぞ。」
伝えたい事を簡潔に言い台所に向かった。後ろから
「おいしいやつを頼むよ。」
と言われたが短時間で作る料理にそこまでのレパートリーがなかったので、半熟目玉焼きを作り持って行った時、空ちゃんが持っていた牛乳パックが噴き出し持っていた半熟目玉焼き×４に降り注いだ。
「「「「あっ。」」」」
４人の声が重なった。俺は無言で皆（ひな以外）の所に配り
「早くしないとひなの保育園に遅刻するぞ。急いで残さずに食べなさい。」

笑みを浮かべて言うと
「「「わかりました。」」」
ひきつった笑みを浮かべ空ちゃんと美羽ちゃん、祐太が目玉焼きを頬張り急いで準備を始めた。
彼らの心境は
『『虎牙叔父さん。怖い。』』
『虎兄。怖すぎる。殺されるかと思った。』
そんな風に思われているとは知らずに、この後の食べ終わったひなを保育園に送り、会社に行く・・・・・・
未婚のハズなのに三児のパパの立場を体験することになるなんて、想像してなかったなぁ。まぁ、俺達5人、楽しく肩を寄せ合って暮らすこの八畳間の生活は――
こんな感じで始まったのだ。

1話（後書き）

駄文ですが楽しんでいただければ幸いです。

2話（前書き）

祐太とオリキャラの会合前までです。

駄文ですがよろしくお願いします。

本文をどうぞ。

2話

話は少し戻って4月上旬。
まだこれから起こる事を知らない俺達は普通の学生と社会人として過ごしていた。

side　祐太

入学してから二週間俺は新歓コンパで知り合った仁村浩一と友達になった。それからしばらくして、入学式以来連絡していなかった姉さんから電話がかかってきた。近況を報告した後おもむろに姉さんが驚くべき事を口にした。
『そういえば虎ちゃん（こうちゃん）がこっち側の会社に就職出来たから、挨拶に来るって言ってたわよ。会う機会が少ないんだからから会いに来ない？それにひなに祐太の顔を覚えてもらいたいのよ。』
「えっ！虎兄（こうにい）が帰って来たの？！」
俺が驚くのも無理もない、何故なら【武者修業に行って来る】と言って三年前に音信不通になっていたからだ。俺はしばらく考えた後「わかったよ。姉さん。いつ行けば良い？」返事を返し【じゃあ。お盆になってから来なさい。】と言われ、まだまだ先だが楽しみにしているとおもむろに
『あっ。そうそう、その日半日だけうちの子達の面倒みてくんない？』
「・・・・・・は？」何故か予想外の返事が返ってきてしまった。

side　祐太　out

ｓｉｄｅ　???
「ふっ。雑魚が！」
こちらに来て早々、絡まれ易い雰囲気からか、良く因縁をつけられる。本日十組目はヤクザみたいな人達で、２０人ぐらい居たけど軽くノしてやった。去り際にリーダー各のサングラスをかけたオッサンから【お前何者や？】と問われたので高校の時付いた通り名を告げた。
「黒き修羅」
簡潔に答えその場を去った。

ｓｉｄｅ　黒き修羅　ｏｕｔ

彼が去って数分後、ノビていた手下達が眼を覚ましてきた。手下の一人がリーダー各の男に向かい
「アニキ。すぐに奴を探し出し八つ裂きにしますか？」
と今後の行動を確認しに来たが、アニキと呼ばれた男は聴いている様子がなく、去った男の方を見たまま固まっていた。アニキと呼ばれた男はただひと言手下に告げた。
「この街から逃げるぞ。」
「はぁ？」
言われた事が理解できず問い返すと
「『黒き修羅』！！それで分かるだろ。」アニキが言った意味を理解し身体の芯から震えだした。
『（黒き修羅）彼には手を出すな』これは日本中にいるヤクザたちの共通認識である。三年前一つの事務所がたった一人に潰された。

その組全体で報復をしようとした所、男子高校生がたった一人で乗り込んで来た。彼は籠手と刀という格好で千人のヤクザと組長を病院に送り、その地域に居たヤクザ達を追い出した。これには警察も黙っていなかったが、その高校生の素性は一切分からなかった。ただ一つその組の組長に言った事が大きく取り上げられた。

『あんた達が裏でなにしようと別に邪魔はしない。だが、俺の家族に危害が及ぶ様なら容赦なくお前の家系の者、ペットや愛人、子供、関係者全てを探し出して殺す。』

これを聞いた他の地域に居たヤクザがそこに勢力を伸ばそうとした時、同じ様に組まるごと潰された。数人同じ様に来たが、全てが３日以内に潰された。これにより、日本中にいるヤクザ関係者全てが認識した。それが『（黒き修羅）彼には手を出すな』と言われる訳である。

2話（後書き）

戦闘シーンは機会があれば書いてみます。

ご意見、ご感想お待ちしております。

3話（前書き）

今回本文が短くなりました。
主人公らしき奴はでてますが本格的に出てくるのは次回からになります。

拙い文ですが気にせず読んで下さい。

では本文どうぞ

3話

そして時が流れ、約束の日になった。

side　祐太

あっという間に約束の日が来た。俺が姉の家を訪ね、そこで三年ぶりに虎牙兄さん（虎兄）と会うという儀式めいた日だ。ちなみに俺の夏休みはバイトとゲーム意外では消費されていない。サークルである路上観察研究会には時々行くが別に活動をしているわけでもない。サークルで織田菜香（おだいか）さん、佐古俊太郎（さこしゅんたろう）先輩に出会った。

（その辺は原作を読んで下さい。）

それはともかく、日射病になるんじゃないかと思うぐらいの暑さの中、俺は一度しか来たことのない道に悪戦苦闘していた。

「うーん・・・・・・こっちで良かったよな・・・・・・？」かすかな記憶をたよりに住宅街を走る細い路地を歩いていく。

ここは豊島区池袋。ＪＲ池袋駅の駅前はそれこそ都会らしい賑やかさだ。だがしかし、そこからほんの少し離れるだけで一気に様子が変わり、古くからの住宅街が残っていたりする。

「・・・・・・・・・暑いな・・・・・・・」

まだ午前中だというのに、足下のアスファルトからは妙な熱気ががんがん立ち上ってくる。いかにも夏らしいギラギラと照りつける太陽を見上げると、なんか恨みでも有るかのような気分だ。そんな日に、大学のある八王子の山奥から姉さんの家があるこんな都心まで出向いて来ていた。

「お、あったあった」
緩やかな坂を上がると目の前にはテレビドラマに登場しそうなシャレた一軒家が現れる。
「しかし・・・・・・相変わらずデカいな。」
姉さんの夫の姉は『小鳥遊(たかなし)』。大昔からこの辺りにある家で、戦前は大地主だったらしい。だが今はそのようなことはなく、持っていた土地は一族に均等に分配され、残っているのはこの家ぐらい。と姉さんが言っていた。
深呼吸をして気持ちを落ち着かせてインターホンを押すとすぐにスピーカーから可愛らしい声が聞こえてきた。
『はい、どちらさまですか？』
「えっと・・・あなたのお義母さんの弟の瀬川祐太です。」
『ああっ、わかりました、すぐ玄関を開けますね』
はぁ・・・・・・よかった。「アナタなんか知りません」なんて言われたらどうしようかと思った。少し待っていると、トタトタと足音が聞こえてきた。
「お待たせしましたぁ！」
玄関を開けて顔を出したのは、長い髪をツインテールにしたアイドルばりの美少女――
「わぁ、お久しぶりですぅ。覚えてますか？　あたしのこと」

side　祐太　out

祐太が美少女に出会った頃一人の男が池袋駅の駅前にたどり着いていた。男は深呼吸をして空気の匂いで帰って来たことを実感し不適に笑った。

3話（後書き）

美羽「質問コーナー！！」
ドンドンパフパフ

空「い、いきなり始まりました、し、質問コーナー。この場は『読んでくださった皆さんの質問に答えていく』という場です。えっとキャラ崩壊もあるかもしれないので気を付けて下さい。」
美羽「お姉ちゃん。堅いよもっとリラックスリラックス。」
ひな「そうだお。気楽に気楽に。」
空「妹に諭される姉って？」
美羽「アハハ。気をとり治して質問に行っちゃおうか？」
ひな「うん。みかぐら　みなとさんからいただいたお。ありがとだお。虎牙おいたんは何歳ですか？ヒロインは誰ですか？」
美羽「作者の設定では２３歳で、ヒロインはまだ本決まりでは無いですが一人考えてるそうです。うん？何お姉ちゃん？私が言う？どうぞどうぞ。」
空「ええっと、そ、その人はまだ出てないけど、確か私たちのし、知り合いの妄想少女だそうです。」
美羽「お姉ちゃん緊張しすぎ？」

三人「ご意見ご感想お待ちしております。次回もお楽しみに。」

祐太「俺の出番無し？！」

4話（前書き）

祐太と再開する前の話になります。

4話

泣いている人がいる。泣いている子供がいる。憎たらしく笑う大人がいる。誰にも気付かれず果てる人がいる。力持つ者がむやみに牙をむき、弱者を強いる。そんな世界だから俺は・・・・・・・・・・

ｓｉｄｅ　虎牙

長い様で短かったこの三年間、俺はアラスカ～メキシコ（ワシントン経由）を走破した。
途中いろんな場所に立ち寄り自分の見聞を広げていき、様々な人と接してきた。例えば偶然助けた少女はマフィアのボスの愛娘だったり、軍基地の近くに居たら軍人に絡まれたので返り打ちにしたり、その事が原因で逆恨みされ何度か絡んできたので、相手をするのが面倒くさくなったのでその軍人の上司に言いつけたら、絡んでこなくたったとか。それはもうたくさん接してきた。
そんなこんなしていると義姉の祐理さんから連絡があり『結婚したので顔を出しなさい。』というものだった。そういえば出て行く時も何も挨拶していなかった事を思い出し、少し自責の念に陥ったが気持ちを切り換えて戻る事を決めた。

帰国する前日お世話になっていたマフィアのボスとその愛娘にお礼を言い、荷物をまとめた。帰国して近くの繁華街をウロウロしていると路地裏から悲鳴が聞こえてきた。周囲にいる連中は聞こえていないようにしていた。『厄介事に関わりたくない。』そんな保身的な雰囲気がでていた。深くため息を吐くと路地に入りそこにいる人に声をかけた。

「なにしてんの？」
ｓｉｄｅ　虎牙　ｏｕｔ

ｓｉｄｅ　北原栞
友達の都合が合わなくて私が一人で買い物をしていると数人のヤクザ風の男達に声をかけられた。
「そこ行く彼女。一緒にお茶しない。」
「お断りします。」
きっぱりと断わるとドスを効かせて
「調子乗んなよ！このアマ！！」
怖かった。殺されると思った。腕を掴まれ路地に引きずり込まれた。何をされるか分からないけど、身に危険を感じて大声で助けを求めた。けど誰もこちらを見ない。『関わりたくない』そんな雰囲気をかもしだしていた。体が震える。喉が渇く。怖い怖い怖い怖い怖いコワイコワイコワイコワイコワイコワイ・・・・・・誰でも良い。誰か誰か私を助けて！！
「なにしてんの」
絶妙なタイミングでその人は現れた。闇を彷彿とさせる髪、ほどよく焼けた肌、無駄の無い体格。遠目で視てカッコイイと思った。その人はゆっくりこちらにやって来る。けどヤクザ風の男は近くにいた仲間に『殺れ』と言った。その人はナイフを取り出し、声をかけてきた男に走り出しタックルをしかけた。声をかけてきた男は近付いてきた男の手にあるナイフに気付くと、その手を蹴りその衝撃でナイフを落とした所でパンチを軽く顎の先を殴った。ナイフを持っていた男はフラフラしたと思った瞬間後ろに吹っ飛ばされた。
「うーん。加減が難しい。」
呟きと共に私を抑えていた。リーダーらしき人が
「お前はいったい何者だ」

声が震えていたが威厳に満ちた態度で聞いていた。声をかけてきた彼はその態度が気に入ったのか嬉しそうに
「まだ骨のある奴がいたか。・・・・・・地獄の土産に教えてやるよ。・・・・・・・・・黒き修羅・・・・・・・」
その名を聞いたヤクザ風の男達は青ざめ震えだした。「今は気分が良い。見逃してやるから早く消えな！」
そう言われヤクザ風の男達は素早く逃げ帰った。
そんな男達の態度とは裏腹に私は彼に見入っていた。路地の隙間からの溢れ日が彼を一層神秘的なモノに変えていった。ふと気付くとその人は何処かに消えていた。『もう一度会えたならお礼を言わなくちゃ。』今更の事に気付きただ、再会を望んだ。・・・彼女の願いは数週間後に叶う事になるのであった。

side　北原栞　out

4話（後書き）

ケンカシーンを出してみましたが、いかがでしたか？
自分の文才ではこれくらいが限界です。雰囲気が出ていないので、
またこいうのがある時はちょっと過激にしてみます。（流血が多く
なるかと）

ご意見、ご感想待ってます。

プロフィール（前書き）

修正しました

プロフィール

瀬川　祐太（せがわ　ゆうた）
普通の大学一年生。特別取り柄もなく、友達を作るのも苦手な方。両親を亡くしており、姉に育てられた。虎牙とは幼なじみで実の兄の様に慕っている。

瀬川　虎牙（せがわ　こうが）
社会人一年目。母方の実家が武術家一家なので、幼い頃から鍛えられ、学生時代は『漆黒の修羅』と呼ばれていた。筋が通らない事を嫌うが、ある程度なら容認している。家族の事をバカにされる事を嫌い、そんな奴には容赦しない。祐太とは幼なじみで弟の様に可愛がっている。

小鳥遊　空（たかなし　そら）
中学二年生の美少女。しっかりもので妹思いの長女。思春期真っ只中で、祐太と虎牙との生活に一番悩みが深い。

小鳥遊　美羽（たかなし　みう）
アイドルばりの美貌を誇る１０歳。女子力の高い小悪魔系。姉妹の絆は強いが、よく空をからかっている。

小鳥遊　ひな（たかなし　ひな）
３歳の保育園児で、人なつっこく可愛い女の子。祐太のことをおいたん、虎牙のことは虎牙おいたんと呼んで慕っている。

北原　栞　（きたはら　しおり）
小鳥遊家の向かいに住む女子高生。思いこみが強い。ヤクザ風の男達に絡まれている所を虎牙に助けられた。その後再開し惹かれ始め

る。

プロフィール（後書き）

ご意見ご感想待ってます。

5話（前書き）

もう一人のヒロイン候補との出会いになります。

駄文ですが楽しんでいただければ幸いです。

5話

ｓｉｄｅ　虎牙

勘を頼りにブラブラ歩いているとどこかで見た風景が見えて来た。
「・・・・・・池袋駅・・・・・・」
何を隠そう俺は軽い方向音痴なのだ。
一度行った場所なら迷わずに行けるが、初めての場所では１００％迷ってしまう。ふとある事に気が付いた『そういえば家の場所を聞くの忘れてた。』帰るとは連絡をいれたが、何処に住んで居るかは聞いていなかった。ここまでは昔からの付き合いの奴に聞いて来たのだが、ここから先は全く分からない。今更ながらに膝をつき絶望していると。
「大丈夫ですか？」
声をかけて来る人がいた。その人はカールした髪型の可愛らしい女の子だった。

ｓｉｄｅ　虎牙　ｏｕｔ

ｓｉｄｅ　菅谷ミキ

「大丈夫ですか？」
私は池袋に用事がありました。その用事も終わり帰ろうと池袋駅に

向かっている途中、前の方にいた黒髪の男の人がいきなり膝をつき何かにうち震えていました。体調が悪くなったのかと思い、つい声をかけてしまった。
その人は闇を彷彿とさせる黒髪、黒一色の服装、細身でしっかりとした体型、軽く日に焼けた肌、そんな姿に一瞬目を奪われボーと見入ってしまった。
「あの、大丈夫ですか？」
話し掛けたのに逆に心配をかけてしまった。
「は、はい。そちらこそ大丈夫ですか？」
「あっ。すみません。親戚の家に行きたいんだけど、どこにあるのか分からなくてちょっと途方に暮れてだけだから。そうだ！この辺りに住んで居るなら場所が分かるかもしれない。」
そう言ってこちらを向き微笑しながらある場所の住所を聞いてきた。なので私は分かる範囲で説明した。その人は一度言った事を忘れず、説明した通りに歩いてみると言って、颯爽と歩いて行った。私は彼の後ろ姿が見えなくなるまで見送っていた。

ｓｉｄｅ　菅谷ミキ　ｏｕｔ

ｓｉｄｅ　虎牙

右往左往して漸く目的の義姉の家にたどり着いた。玄関に進もうとした時、玄関の扉が勢い良く開き中から、三人の女の子達が出てきた。三人の内金髪でツインテールの美少女が話掛けてきた。
「あの～。どちら様ですか？」
「あぁ。君達の親類だよ。」
至極当然な問いに簡潔な答えで返した。彼女達は驚いた様子でこちらを見ていた。

side　虎牙　out

side　美羽

私達がスーパーに買い物をしに行こうとして玄関を開けると家の敷地に入ってくる男の人がいました。その人は『自分は親類だよ』と言ってきました。そして私達が驚いた表情を見て苦笑し『ウソじゃないよ。小鳥遊美羽ちゃん。後ろにいる幼い方がひなちゃんで、となりにいるカーネーションを付けた若干オタク気味なのが空ちゃんだったかな？』と言ってきました。私たちは再度驚いた。お姉ちゃんのオタク趣味を家族意外で認知している人はいないはずだったのにその人は知っていた。お姉ちゃんはひなと一緒に脅えている感じだった。私は相手の人に質問しようとした時、家に電話がかかってきた。相手はお母さんで内容は『もう一人あなた達に会わせたい男の子がいるのよ。その子は私の弟分で服装は黒一色の衣服をいつも着ていて、雰囲気が暗いみたいな奴だけど面白い奴だから来たら仲良くしてあげてね。』ということだった。この事を教えるとその人は『はぁー』と深いため息を吐き、気分を切り替えたのか微笑を浮かべて

「買い物に付き合うよ。」

そう言って、私たちと一緒に買い物に付き合ってくれた。帰り道の途中では、三人にアイスをおごってくれた。最初は驚いたけど良い人みたいで良かったと思った。

side 美羽 out

5話（後書き）

もう少しで祐太との再会になります

ご意見、ご感想お待しております。

6話（前書き）

今回短くなっています。

6話

ｓｉｄｅ　虎牙

小鳥遊家に帰って来ると家の中から叫び声が聞こえてきた。
「・・・・・・にとくと刻むがいい！父の愛の深さを！」
「何だ何だ。ヤクザでも出たか？」
「あれって間違えないね。」
叫び声を聞き、俺は検討違いで物騒な事を考えていた。しかし、この叫び声の正体を知っているのか美羽ちゃんは、大きなため息を吐き出していた。別に自分には関係無いと思い家に入ろうとしたら、目の前には靴べらを降り上げて祐太を襲っている奴がいた。しばらく傍観していると、愛する娘のため修羅と化した男（娘バカ）が獲物の靴べらを大きくふりかぶったその時――
「いい加減にしろ！このバカ亭主！」スパコーンと小気味よい音を立てて男の頭をスリッパで叩かれた。叩いたのは幼なじみの姉にして俺をここに呼んだ人物だった。

ｓｉｄｅ　虎牙　ｏｕｔ

ｓｉｄｅ　祐太

さっきまでの修羅から一転、俺にとって義兄にあたるその男性はすっかり穏やかな中年に戻っていた。どちらかといえば内向的な雰囲気の人なのだが、さっきの殺気は本物だった。
「まったく・・・・・・信吾さんは思いこみが激しいのよ。虎牙君が相手だったら殴られるだけじゃすまされなかったわよ。」
「・・・・・・なかなかやるな。ひなちゃん。だがこれはどうかな。

我が最終奥義を受けよ。オリャッ、オリャッ、オリャッ、ドリャアー。」
話題になっている虎兄はひなと一緒に、ホームランバーみたいなコントローラーを振ってチャンバラをするゲームをしている。良い勝負をしているのかひなはご機嫌だ。虎兄の連続技が決まりひなが負けると虎兄はひなに近づき
「俺の連続技使わせるなんて、ひなちゃん強いな。」
と頭を撫でながら褒めていると義兄さん（にいさん）が勢い良く立ち上がり
「キサマダレノユルシヲエテヒナニサワッテイル。」
表情を消した顔で虎兄に対し話し（威嚇）掛けた。そんな緊張の中、ひながとんでもない提案を出してきた。
「パパと虎牙おいたんで勝負して。」

そんなひなの提案に乗り、義兄さんはコントローラーを持ち、面倒くさいと言いたげに虎兄もコントローラーを構えた。
「祐太。ひなちゃんの相手をしてくれ。」
そう言って始まるのを待ちだした。虎兄が何をするのか気付いた俺はひなと一緒にその場を離れた。ゲーム内容はあまりにも一方的だったため結果だけを記載させてもらいます。勝者・・・・・虎兄

side　祐太　out

6話（後書き）

いかがでしたか？
ご意見ご感想待ってます。

7話（前書き）

今回も短くなってしまいました。
今後からは、このくらいの量になると思いますが頑張って続けて行く所存です。

ではでは、本文スタート

7話

ｓｉｄｅ　虎牙

一方的なゲーム（ワンサイドゲーム）を終えてすがすがしい顔で俺は祐理の姉御（通称・祐理姉）に今回帰って来るように言った訳を聞いた。解答は『家族を紹介したかったから』という俺から言えば下らない事だった。

「・・・・・・パパだって頑張ったんだぞ？」

「うん、ありがと」

祐理姉と話し込んでいる時に何かあったらしく、空ちゃんがあっさりしたお礼を言うとその前から扱いが酷かったのか娘バカが、ソファで丸くなりいじけてしまった。

「ほらほら、信吾さんイジケないで。信吾さんが頑張ったのは私が知ってるから」

「ゆ、祐理さん・・・・・・！」泣きながら祐理姉に抱きつく娘バカ。

そんな家族団欒を見れば、祐理姉が幸せだって事が俺と祐太によくわかった。俺はそんな風に誰かと家族を作るとか考えたことがなく、『俺もいつの日かこんな家族が出来たら良いな』なんてガラにもなく考えていた。数分後、祐太が大事な用で帰ると言った時俺は従姉妹にあたる三姉妹を見据えて

「じゃあ。俺も帰るか。」

そう言うとひなが俺と祐太の脚にしがみついて

「おいたん達かえちゃやー」

と、抗議してきた。祐太がひなに今度来た時に泊まることを約束していると美羽ちゃんが来て

「虎牙さんも今度来た時は泊まっていって下さいよ」と言われたので約束し、久しぶりの日本で就活を始めることをこの時に決めた。

そのあと、祐理姉から再来週から一週間くらいの海外出張でいない

から、その間の泊まり込みでの三姉妹の面倒をみる事になった。もちろんバイト代も出るので祐太も一緒に快く承諾した。
今に思えばこの時祐理姉は自分がこのあとどうなるか気付いていたように感じた。

side　虎牙　out

10日後祐理姉達の乗った飛行機が行方不明になった。

7話（後書き）

いかがでしたか？
虎牙と長女次女の関係は、美羽ちゃんは話が合う友達で、空ちゃんは接し易いお兄さんという設定です。
決して二人は、ヒロインではありませんのでご了承下さい。
ご意見ご感想待ってます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0827x/

パパのいうことを聞きなさい！ IFストーリー

2011年10月13日12時50分発行